

社団法人老人病研究会主催・認知症 Gold-QPD 育成講座

認知症 Gold-QPD 育成講座推進委員会代表



【川並 汪一：社団法人老人病研究会会長、日本医科大学名誉教授】

1973年：日本医科大学大学院卒、アメリカ国立衛生研究所（NIH）留学、WHO-アドバイザー、1997年：日本医科大学老人病研究所教授所長、2006年：社団法人老人病研究会会長、2007年：文科省戦略的基盤社会連携事業認知症支援ネットワーク代表、2009年：日本医科大学定年退職・名誉教授、2012年：中医学漢方工房院長

認知症 Gold-QPD 育成講座講師一覧



【韓 景献：社団法人老人病研究会顧問、天津中医薬大学教授鍼灸研究所所長】

1970年：天津医科大学臨床医療系卒業、1988年：京都大学医学部老化生物研究所留学教授、2003年：天津中医薬大学第一附属医院院長、研究所所長、中国鍼灸学会脳病科学委員会主任、中国中西医结合学会（統合医療学会）神経科学専門委員会副主任、中国老年学学会抗加齢科学委員会副主任、中華医学老年医学会基礎医学学会委員



【北村 伸：社団法人老人病研究会常務理事、日本医科大学武蔵小杉病院神経内科教授】

1976年：日本医科大学卒業、神経内科認知症専門医、日本医科大学武蔵小杉病院街ぐるみ認知症相談センター代表。講演要旨）認知症に関する医学講師陣を形成し、認知症の診断手順、神経学的所見、画像所見について映像を加えて解説する。さらに具体例を示しながら認知症性疾患と社会資源などの基礎的理解をしてもらう。



【兵頭 明：社団法人老人病研究会常務理事、学校法人後藤学園中医学研究所所長】

1982年；北京中医薬大学卒（関西大学と明治鍼灸専門学校卒）後、中医学鍼灸教育の普及と啓蒙に尽力中、教科書シリーズの作成、医師や薬剤師向けの中医学セミナーの開催、中医学の総合雑誌『中医臨床』誌に長期連載など執筆活動。中医学理論と認知症常用穴 20 穴の紹介と応用、全人的総合的アプローチの重要性を解説する。



【岸 泰宏：社団法人老人病研究会健康の集い講師、日本医科大学武蔵小杉病院精神科部長】

1989年日本医科大学卒、2008年4月日本医科大学武蔵小杉病院に精神科開設、米国2年間留学（米国保険会社）（米国の医療は保険会社の対応で決まる）。日米ともに精神医療と身体医療の分離があり包括医療が阻害されている。身体疾患に伴う”精神症状”がADLを決定するので心身両面からの治療が重要で医療向上につながる。



【三品 雅洋：認定認知症 Gold-QPD 育成講座評価委員、日本医科大学付属病院神経内科病棟長】

1990年：日本医科大学卒業、神経学会認定医、日本脳卒中学会専門医、PET核医学認定医、日本医科大学大学院医学研究科神経内科学分野講師、新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター非常勤講師、東京都老人総合研究所ポジロン医学研究部門客員研究員。千葉県脳卒中連携システム構築、アルツハイマー病のシグマ1受容体の研究。



【石渡 明子：認知症 Gold-QPD 育成講座認定評価委員、日本医科大学神経内科病院講師】

1992年日本医科大学卒。日本認知症学会専門医、2001年よりワシントン大学客員研究員、認知症の早期診断の研究、物忘れ外来にて臨床医としても勤務。現在は日本医大付属病院で物忘れ外来を担当。日本医科大学武蔵小杉病院街ぐるみ認知症相談センタースタッフでもあり中原文化協会の市民講座を行うなど認知症の啓蒙活動にも力を入れている。



【植松 秀彰：認知症 Gold-QPD 育成講座鍼灸教育担当、牧田総合病院・中医クリニック】

1982年 学校法人東京医療専門学校教員養成科卒業 現在講師、天津中医薬大学第一付属病院認定 醒脳開竅法指導員。2004年より醒脳開竅法講座・牧田塾主催で実施中である。牧田総合病院関連施設牧田中医クリニック勤務、第1回認知症 Gold-QPD 育成講座より講師として活躍である。



【小俣 浩：認知症 Gold-QPD 育成講座推進委員、埼玉医大東洋医学センター鍼灸師】

1983年：明治鍼灸短期大学鍼灸学部卒業、1993年：埼玉医科大学第二内科東洋医学部門（東洋医学科）、1999年：医学博士号授与（埼玉医科大学）、2003年：Sweden 王国 Linkoping 大学留学。「欧米における認知症鍼灸治療成果」によるとモデル動物と臨床でも中核症状 MMSE、ADL スコアの改善させる事実が報告されている。



【河原 保裕：認知症 Gold-QPD 育成講座推進委員、埼玉県鍼灸師会副会長】

東京衛生学園専門学校卒、牧田中医クリニック勤務、天津中医学院第一付属病院留学、1996年 アコール鍼灸治療院開業、(社)埼玉県鍼灸師会副会長、(社)日本鍼灸師会学術局経穴委員、第二次日本経穴委員会作業部委員。韓景献教授の開発した三焦鍼法をマスターすべく補瀉手技標準化トレーニングと手技の評価を行う。



【高士 将典：認知症 Gold-QPD 育成講座推進委員、東海大学大磯病院鍼灸治療室】

1981年昭和薬科大学生物薬学科卒業、東京衛生学園鍼灸マッサージ科卒、1987年東海大学医学部付属大磯病院東洋医学科鍼灸治療室および東海大学医学部東洋医学講座。中医学で認知症は虚証タイプは髓海不足、脾腎両虚型が多く実証タイプは痰濁阻竅型、血瘀脳竅型が多い。それぞれの症状・所見および治療について紹介す。



【渡辺 明春：認知症 Gold-QPD 育成講座鍼灸教育担当、学校法人後藤学園中医学研究所中医臨床センター】

1986年小田原衛生学園卒業後、北京中医学院外国人進修班留学、翌年天津中医学院留学し、1989年6月後藤学園中国室に入職。2010年4月より後藤学園中医学研究所中医臨床センター勤務となる。資格：はり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師、介護支援専門員、介護福祉士、通訳案内士（中国語）



【齋藤 隆裕：認知症 Gold-QPD 育成講座鍼灸教育担当、学校法人後藤学園中医学研究所中医臨床センター】

2001年 東京衛生学園卒業、2003年 教員養成課程修了あはき教員資格を取得、2005年 天津中医学院(現・天津中医薬大学) 修士課程修了 2005年～2010年 牧田総合病院 中医クリニック 助手(醒腦開竅法) 2009年 鍼灸マッサージ処「鍼灸らせん堂」開業 2010年～舞浜倶楽部にて「認知症に対する三焦の鍼」の施術チーム



【中西 憲幸：社団法人老人病研究会理事、(社)ソーシャルユニバーシティ副校長】

1973年富山大学薬学部卒、エーザイ株式会社、企画部プロダクトマネージャー、エルメッド・エーザイ株式会社社長、エーザイ株式会社医薬部部長などを歴任し定年退職、当社団法人老人病研究会の認知症国際フォーラム開催、認知症 Gold-QPD 育成講座推進委員として講師担当



【麻隅 紀明：社団法人老人病研究会理事、NPO 法人コミュニテイケアネットワーク代表】

認知症 Gold-QPD 育成講座推進委員としてグスタフ・ストランドル氏と共同で介護福祉関連の講義と実技を担当。(株)舞浜倶楽部におけるシルバーコースの実修に関する立案と実践部門担当、本邦における高齢者施設建設と運営におけるエキスパートであり NPO 法人代表としても幅広く活躍している。



【Gustav Strandel グスタフ・ストランドル：社団法人老人病研究会理事、(株)舞浜倶楽部社長】

川崎福祉産業振興ビジョン検討委員会委員 2010年：フジテレビ新報道 2001 出演、2009年参議院国民生活・経済に関する調査会参考人。日本全国 250 カ所以上の高齢者や認知症施設を見て多くの高齢者や認知症患者さんの表情が生き生きしていないことに気づく。個々の「家」にならなくても「在宅」と同じ環境を提供したい。



【若松 直樹：新潟リハビリテーション大学医療学部リハビリテーション学科】

2007年桜美林大学大学院老年学研究科修了。博士(老年学)学位取得。日本医科大学街ぐるみ認知症相談センターを経て、2012年新潟リハビリテーション大学医療学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻准教授。専門領域は認知症の早期発見のための神経心理学的検査、および認知・情動機能のリハビリテーション。